

事例集

# みんなが 働きやすい 環境整備

トイレ・  
更衣室・  
休憩室など

令和2年度補正  
農林水産省補助事業  
女性の活躍推進  
対策補助金



# 女性の グループの 活動支援

商品開発・  
先進地視察・  
研修など

本事例集は、農林水産省 補助事業「令和2年度 担い手育成・確保等対策事業費補助金等(農業労働力確保緊急支援事業のうち女性の活躍推進対策)」の一環として制作しました。

発行日:2022年3月  
編集・発行:株式会社マイファーム  
問い合わせ:株式会社マイファーム 女性の農業活躍推進事務局  
〒600-8216 京都府京都市下京区東塩小路町607番地辰巳ビル1階  
Tel:075-746-6213 Email:women@myfarm.co.jp

デザイン:橋本亮子  
編集:小野民

## 女性の活躍推進対策事業について

女性農業者グループの活動支援や女性が働きやすい環境整備支援を通じて、女性農業者の活躍推進および女性の農業農村への定着・さらなる呼び込みにつながることを目的に、該当活動に取り組む事業者を公募し、選定。補助金を交付しました。

公募期間は、令和3年4～5月、事業実施期間は令和3年7月～令和4年3月までの間で、「女性農業者グループの活動支援」と「女性が働きやすい環境整備に向けた施設等の確保」の2つの分野にたくさんの応募がありました。選定の結果、81団体が事業実施の主体となり、令和3年度中に対象の活動や環境整備を完了しています。

それぞれの団体がどんな計画で事業を実施したのかについては、当事業のホームページでも公開中ですので、ぜひご覧ください。

この事例集では、さまざまな取り組みの中から、計7つの事例を紹介しています。女性の活躍について真摯に向き合い、積極的に動いた団体のみなさんの想いと、この取り組みを通じて得られた気付き・成果に触れて、農業現場における女性の活躍について考えるきっかけにしたら嬉しいです。

### 女性の活躍推進対策 補助金活用事業者一覧

<https://myfarm.co.jp/women/pickup/detail/?p=2250>



## 女性農業者グループの活動支援について

全国各地の女性農業者グループは、女性農業者の活躍・能力発揮の拠点になっています。

令和2年度補正予算「女性の活躍推進対策」では、女性農業者グループの活動支援を通じて、女性農業者の能力発揮の推進、ひいては女性農業者の定着・呼び込みに寄与することを目的に、活動を後押しする補助金を交付しました。

補助の対象となる活動

上限  
50万円

### 女性農業者グループの活動支援

#### 1. 女性農業者等のグループの立ち上げのための取り組み

例:

- グループ活動の開始に向けた組織設計等の研修会の開催、講師派遣
- 事業開始に向けた登記作成の支援
- グループ活動の周知によるメンバーの募集
- 協業者の探索、協業者との打ち合わせ、勉強会

#### 2. 女性グループ活動の開始、発展に向けた取り組み

例:

- 6次化に向けた先進事例の調査
- 商品の新規開発に向けた試作品の開発費用
- 活動が活発な他地域女性農業者グループ活動の調査、視察
- 他事業者との連携に向けた打ち合わせの開催

(参考) <https://myfarm.co.jp/women/katsuyaku/>

グループ活動支援の補助金を活用した37団体のうち、

- |                  |                            |
|------------------|----------------------------|
| ● 商品開発……………16件   | ● 会員募集(チラシ作成・体験会開催)……………6件 |
| ● 先進地視察……………14件  | ● マルシェ開催推進……………2件          |
| ● 研修会の実施……………14件 | ● その他(グループのロゴ作成など)……………3件  |
- ※複数実施の団体有

が実施されました。そのなかから、補助金を異なる活動に充てた団体3つの事例を紹介します。

### 事例目次

- Farmers Plus ……………4ページ
- AGRI BATON Runner……………6ページ
- (一社)かみかみごはん……………8ページ

# Farmers Plus

話し手: 矢野智美さん

## 団体情報

所在地	広島県安芸高田市向原町
代表者	カタクタン・ジェスン・ノラスコ
設立年	2021年5月
メンバー数	13人(男性4人、女性9人)
特徴	わが家の農業の発展のみならず、農業を通じた地域活性化を目指しています。周囲の農家それぞれが抱える課題を、互いが解決しあっていき、持続的かつ、発展的な関係をつくることを目標としています。

### ● 解決したかった課題 ●

## 小さな農家でも加工品開発がしたい!

農業をやっている友人たちと定期的に集まり、「ワクワクする活動」を模索する日々。加工品開発のアイデアが出ましたが、加工施設の建設は、小さな農家にとっては現実的ではありません。気軽に加工品づくりにチャレンジできる場があれば……と想いは募りました。

➤ 保健所の許可を得たシェアキッチンがあれば、商品開発や販売のハードルが下がる

## 素材があればOKじゃない 商品開発にはノウハウと人脈が必要!

一次産業から六次産業にジャンプアップするためには、農家である私たちとは違ったノウハウを持っている人たちの人脈や、素材の調達が必要です。これまでつながっていなかった人たちと知り合ったり、新しいスキルを身につけなくてはなりません。

➤ 協力者に謝礼を支払えば、苦手な部分も補える



### 補助金の使い方内訳(税抜)

- 商品開発協力費用 …………… **22**万円
- 調理室レンタル代 …………… **30**万円  
(4時間×6日間、オープンや包装機材など業務用器具使用料含む)

※材料代金や資材代金は個人負担  
※上限50万円を超える金額は自己負担

## 目標は「大型農家」じゃなく「おもしろい農家」 過疎の地域にワクワクする活動を

### 「もったいない」の解消がやりがい。シェアキッチンで作り手と使い手がつながる

農家仲間との会話のなかで、小さな農家でも加工品開発に気軽にチャレンジできる場がほしいと「シェアキッチン」を思いつきましたが、賃貸するにしても資金が足りません。そこで補助金の存在が助けになりました。JR芸備線向原駅の構内にある食品店の一角にある調理施設を借りられることになり、商品開発に取り組むことが可能になったのです。

私たちが育てた農作物をもとに、加工品のレシピ9つを完成させることを目標にしました。利用するのは、米粉、水菜、落花生、バジルなど、たくさんあって余っているものや規格外のものが中心。もったいないものを生かせることはやりがいに直結します。飼料用になるくず米を使った米粉のカップケーキ、水菜の水キムチやバジルペーストなどの開発に成功しました。

加工品開発に取り組んでみて知ったのは、農業者がもっている材料以外にも、人脈やノウハウなど必要なものがたくさんあること。商品ができて、試食を多様な人にしてもらう必要もありました。

今回の取り組みの鍵になったのは、場所探しをしているときに、地域おこし協力隊出身で加工に詳しい森本真希さんと出会ったことです。調理施設のオーナーである森本さんは、私たちの目的に共感してくれ、場所の提供やレシピ開発などに協力してくれました。

またシェアキッチンを通じて、キッチンカーを運用している方にも知り合うことができました。キッチンカーでは、メンバーが生産したはやとうりと落花生を使ったスープを数量限定で販売してくれました。



### メンバーの多様性を生かして多様な事業展開を

シェアキッチンの使用を通して、人脈や取り組みの幅が広がりました。今後も仲間や企業と共同運営で続けていき、加工品を商品化していく予定です。農業者のみではなく、さまざまな職種の人と出会えたことで、農業+αの活動の可能性が見えてきたと思います。今回の補助事業がいい足がかりになりましたが、保健所とのやりとりや必要な設備の準備など、商品化へのハードルは高かったです。今後もできる人、得意な人を巻き込む必要があります。

Farmers Plusは、地域活性化という目標のもとに、専業農家、兼業農家、新規就農を目指す人、農業とは無関係の人……さまざまなバックグラウンドをもっている人たちが集まったグループです。事業応募時は活動メンバーは6人でしたが、参加者が増え、**現在では13人にまで拡大しています。**私たちの多様性を生かして、今後も新しい取り組みをしていきたいです。



# AGRI BATON Runner

話し手:代表・横田 祥さん

## 団体情報

所在地	(グループメンバーは全国各地に点在) 創設メンバーは茨城県龍ヶ崎市塗戸町
代表者	横田 祥
設立年	2021年*
メンバー数	61人+4団体(男女比は9:1)
特徴	農業は楽しい! を子どもたちに伝える絵本の日本全国での読み聞かせを通じて、農業をあこがれの職業にすることを目指しています。オンラインで全国の仲間とつながることができ、読み聞かせするためのノウハウやイベント開催のノウハウを共有し学ぶ会を開催しています。



### 補助金の使い方内訳(税抜)

- 講習会 …………… 5万円×4回
- WEBページ制作 …………… 30万円

※グループ母体のAGRI BATON PROJECT(絵本の企画・制作)は、2019年設立。絵本の普及をしていくAGRI BATON Runnerは2021年設立)

### ● 解決したかった課題 ●

せっかくつくった絵本、  
もっと上手に伝えたい

クラウドファンディングで制作費を募り、農業の楽しさを伝える絵本をつくりました。ところが、絵本とセットで考えていた「読み聞かせ」に自信が持てない人が意外と多くいることが判明。「私にもできる」と思ってもらうにはどうすればいいか悩みました。

➤ 希望者が読み聞かせ・手遊びなどの講習会を受けられれば自信がつく

絵本を入口に実体験までつなげる工夫をしたい

絵本をつくった目的は、子どもたちに農業に興味を持ってもらい、実際の農業体験につなぎたいという想いです。そのためには絵本を入口にした他の伝え方も考える必要があります。普段から動画に親しんでいる子どもには、動画コンテンツも有効な気がしました。

➤ ウェブサイトを作成し、間口を広くする

## 「農業は楽しい」が詰まった絵本を 全国の仲間たちが読み聞かせで伝える

### 子どもたちが農業を知らない!? 農業を「なりたい職業」にするために

とある中学校で「なりたい職業」のアンケートを取ると「農業」と書いた生徒が1人もいなかったことに驚きました。大変なイメージを持たれやすいのかもしれませんが、私たちは農業の楽しさを知っています。私たちなら、小さい子どもたちに、農業の楽しさを伝えられるはず。手段は絵本がいいと考え、絵本の制作費をクラウドファンディングで募りました。

全国の女性農業者に活動を周知していくと、取り組みに共感してくれる人がどんどん増えていきました。現在、「AGRI BATON Runner」と名付けた読み聞かせグループを構成するのは、日本全国に61人、4団体。Facebook上にあるグループページの登録者は、244人にもなりました。

賛同者は増えたものの、絵本の読み聞かせに関

しては自信がない人が予想以上に多かったんです。そこで補助金を活用して、読み聞かせと手遊びの講習会を実施しました。その結果、「読み聞かせのハードルがすごく下がった」という反応がありました。

講習会の開催方法ですが、当初はオンライン会議システムZoomを利用して、招待制にするつもりでした。でも、あえてYouTubeとFacebookの2つのチャンネルで公開型のライブ配信にし、誰でも見られる形式に変更しました。日本全国の人に見てもらい、絵本の認知拡大とともに、読み聞かせも広がってほしいなと考えたのです。私達のグループは全国にメンバーが散らばっているの、一人ひとりが楽しみながら、絵本の読み聞かせをしていきたいと思っています。



### 仲間もどんどん増加中! アナログとデジタルで「楽しい農業」を伝える

講習会により私たちの活動がレベルアップしましたし、WEBページができたことで、私たちの活動をより理解してもらえる土壌をつくることができました。想いが伝わる発信ができるようになったおかげで、アグリバトンプロジェクトの活動に共感し、参加してくれる方が増えています。

絵本の制作では、読んだ子どもたちが畑や田んぼに興味を持ち、実際に農業体験をしに行くことを目標にしました。そのため、絵本の中のQRコードからウェブページに飛べば、実際の田畑の様子が動画で見られますし、絵本には体験を受け入れている日本全国の農家情報を掲載しています。

アグリバトンプロジェクトでは、読み聞かせをしてくださる方を募集中。絵本を使って、ご自身の地域の農業の魅力を、地元の子供たちに伝えていただけたら嬉しいです。

### 団体の情報はここから

Facebook: <https://www.facebook.com/agribatonproject/>  
Instagram: <https://www.instagram.com/agribatonproject/>  
紹介動画: <https://youtu.be/ZQRkeNOTzrE>



# 一般社団法人 かみかみごはん

話し手:代表・松岡照代さん



## 団体情報

所在地	大阪府豊能郡能勢町
代表者	松岡照代
設立年	2021年秋(任意団体としての活動は2015年~)
メンバー数	現在13名(全員女性)
特徴	以前より一口50回ご飯を噛んで食べる「カム会」を中心に、田畑で自然農を楽しんでいます。子育て世代の女性が運営しており、農とつながるごはんを真ん中に、子どもと地球が笑う未来の創造を目指しています。

## 補助金の使い方内訳(税抜)

- 先進事例視察……………約 **20**万円  
(大阪~千葉 2泊3日×4名)
- 一般社団法人化……………約 **30**万円

※環境整備の申請も採択され、農作業の合間に使う更衣室・休憩スペース等の整備費用に。

## ● 解決したかった課題 ●

### 地道な活動から一歩前進したい

代表の松岡が運営するコミュニティーハウス「照乃るゑ」を拠点にイベントなどの活動を続けてきましたが、さらに多くの人に伝えたり、体験してもらおう活動を思い描いていました。しかし、資金面の問題で新たな事業の実施は難しく、二の足を踏んでいました。

➤ **元手となる資金があれば、法人化など新しい展開の準備に充てられる**

### カフェ運営に挑戦したいけれど、ノウハウがない

活動を広めるためにカフェを開く目標を立てましたが、メンバーは誰もが未経験。どのような準備をすればいいのか、どうやって道筋を立てればいいのか方法がなく、困ってしまいました。

➤ **視察に出かける、詳しい人を講師に招くなどできれば指針になる**

## ソフト・ハード両面の補助金を申請 クラウドファンディングも併用しカフェ開店へ



### 「事業に採択」が活動が新しいステージなるきっかけ

資金面がネックになっていた活動の推進ですが、補助事業の環境整備とグループ活動両方に応募し、おかげさまで採択されました。これまではコミュニティーハウス「照乃るゑ」として主に会員を募っての活動をしてきましたが、より開かれた場を展開していく決心ができました。

まず、建物の環境整備と並行して、団体を協議会から一般社団法人に変更。登記の手続きなど自分たちではやりきれない部分に経営コンサルタントのサポートを依頼し、ここに関わる費用も補助金で賄うことができました。また、カフェ運営の参考にするため、遠方への視察へ。これらの取り組みで弾みがつき、自力でクラウドファンディングで200万円の資金調達に挑戦し、カフェは5月以降にオープンする予定です。

メンバー4人で行った視察先のひとつは、千葉県いすみ市にある田畑つき古民家スペース「ブラウズフィールド」。2泊3日で宿泊付き自然体験に一般の方々と共に参加し、農と食と暮らしが繋がる体験の需要があると感じました。宿泊施設・カフェの運営方法やスタッフの募集方法、施設の管理など、多方面からの知見を得ることができたのは、体験型の視察を行えたからだと思います。

現地で私たちのビジョンも伝え、応援者になってもらったことも励みになりました。この縁をきっかけに、コラボレーションイベントの実施も予定しています。ブラウズフィールド以外にも、メニュー研究やカフェのコンセプト検討のため大阪府内を中心とした日帰り視察なども行えました。



### 先進事例への視察で生まれた新しい繋がり

今後は、仲間とのカフェ運営を軌道に乗せることが目標です。私たちが目指すカフェの特色のひとつは、託児機能を持たせて小さいお子さんを持つママに働いてもらうこと。カフェで働く女性の家族や、カフェのお客さまが農村に興味を持つきっかけにしていきたいです。**いずれは、地域への移住者の増加、農業への新規参加者を増やすことにつながるはず。**私たちの取り組みが、女性が変わる未来の農村のモデルとなり、他地域に同様の事例が生まれることを願っています。

現在は視察先で学んだことを生かし、ロケットストーブの使い方、柿酢づくり、エココンポスト体験をしてもらえる環境を整備。「農作業体験日」を設け、気軽に農業に触れる機会を以前よりたくさん提供できるようになっています。また、**一般社団法人に変更したことでメンバーが7人も増え、行政や地域の方への説明もスムーズになり、協力が得やすくなりました。**



## 女性が働きやすい環境整備について

基幹的農業従事者の約4割は女性です。にもかかわらず、農業現場ではいまだに、女性が働きやすい環境づくりができていないケースが多い状態です。

令和2年度補正予算「女性の活躍推進対策」では、全国各地の不便や困りごとに応え、解消していくことで、女性の農業界への呼び込み・定着に寄与するため、環境整備に関する補助金を交付しました。

補助の対象となる活動

上限  
300万円

### 女性が働きやすい環境整備に向けた施設等の確保

1. 託児スペースの確保

2. 男女別トイレの確保

3. 更衣室の確保

4. 休憩スペースの確保

5. その他女性活躍に資するとマイファームが認める施設等の確保

※汎用性が高く女性活躍への効果が低いと考えられる農業機械等については対象から除きます

(参考) <https://myfarm.co.jp/women/katsuyaku/>

環境整備を実施した53団体のうち、

- ・男女別トイレの整備……47件
- ・更衣室の整備……28件
- ・休憩スペースの整備……31件
- ・託児スペースの確保……3件

※複数実施の団体有

が実施されました。そのなかから、異なる条件下で補助金を利用した4つの団体の事例を紹介します。

### 事例目次

- (株)ほほえみ農園……………12 ページ
- (株)さかうえ……………14 ページ
- 三つ星(株)……………16 ページ
- Mother Nature ……………18 ページ  
農村でかがやく女性協議会

# 株式会社ほほえみ農園

話し手: 代表・太田真司さん



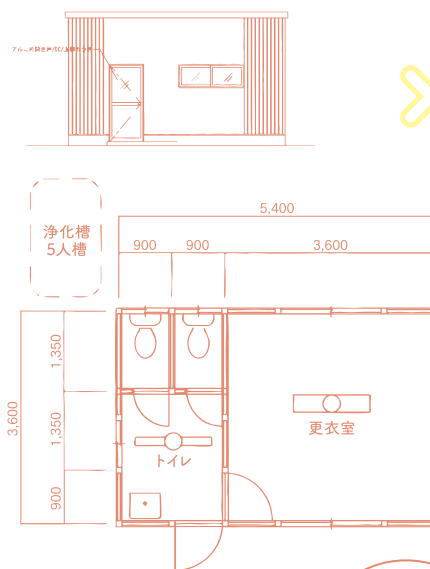
## 団体情報

所在地	愛知県西尾市東幡豆町
代表者	太田真司
設立年	2016年3月
従業員数	9名(うち女性8名)
特徴	ミニトマト栽培が主。農業体験の受け入れも積極的に行っています。近郊地域の育児中の女性が、子どもの病気や学校行事でも休みやすい雰囲気や環境づくり、重い物を持つ機会の軽減などに取り組み、女性が働きやすい環境づくりを工夫しています。

## 補助金の使い方内訳(税抜)

- 男女別トイレ …… 約 **300万円**  
+ 更衣室兼休憩室  
(金属造、骨格材3mm以下)

※基礎工事、木質躯体パネル工事、給排水設備工事ほか



上: 工事図面(外観)  
下: 工事図面(室内)。  
使いやすさを意識した  
コンパクトなつくり

休憩室をきっかけに、  
定例ミーティングが  
できるようになった

アフター **AFTER**

外観



左: 更衣室兼休憩室。全体的に木のぬくもりのある仕様にし、みんなが落ち着く空間に  
右: 同じ建屋内にある男女別トイレ

午前だけの勤務で  
トイレには行かない  
ようにしていたけれど、  
新しいトイレには  
行きやすい

## 口には出しにくい「トイレ問題」を 解消して、離職率が低下

農業界以外では、事務所がある会社で、男女別のトイレがあるのは当たり前ですが、これまで、どうしてもトイレの整備にお金をかける余裕がなかったんです。今回整備してみて感じるのは、誰もが使いやすいトイレがあることで、会社としての意気込みを見せられること。雇用において、当社を希望する理由にまではならなくても、不安要素が他にもあれば連鎖的にトイレ事情はマイナスにカウントされてしまうものです。

## 休憩室で新しい コミュニケーションが生まれる

休憩室ができたことで、きちんと休んでもらえるようになりました。また、この場所を活用して月に1回は従業員のみみなさんだけで議長をたててミーティングを実施しているのも大きな変化です。そのミーティングは、新人さんたちも手を挙げて発言しており、頼もしく感じています。従業員同士のコミュニケーションが増えたのはもちろん、女性活躍や、農業の現場改善のきっかけにもなっています。



ビフォー

## ● BEFORE ●

### ほとんど女性従業員でも、 男女共用仮設トイレ1つ

スタッフは常に女性がほとんどで、30~40代の子育て世代の女性が活躍しています。トイレは、約10人に対して、和式の仮設トイレ1つ。老朽化していて衛生的にも不安があり、数も足りていませんでした。かつては、離職の理由のひとつになったことも。



### 落ち着いて休憩できる場所がない

これまでは休憩室らしいものはなく、昼食時も作業場の近くでとっていました。作業場も見える環境ですから、どうしても仕事と休憩が地続きになってしまい、しっかり休まる時間がなかったのではないかと思います。



施設が充実すると  
女性の雇用に  
積極的になれる

### 新規の女性アルバイト確保のきっかけに

きれいなトイレや休憩室があることは、求人の際のPRにもなります。特に、以前の職場にトイレがなかった人は大切さを痛感していて、とても評価してくれました。現在新たなハウスを建設中で、今後さらに女性の雇用を進めていくので、いいタイミングで環境整備ができてよかったです。

# 株式会社さかうえ

話し手:経営企画部部长・坂上宏一郎さん



## 団体情報

所在地	鹿児島県志布志市志布志町
代表者	坂上 隆
設立年	1995年4月
従業員数	88名(うち女性40人)
特徴	馬鈴薯、青汁用ケール、キャベツ、ピーマンなど多品目栽培。また、国産牧草飼料の生産や、耕作放棄地を利用した放牧牛「里山牛」の飼育、精肉、販売までを一貫して手がけています。 <a href="https://sakaue-farm.co.jp/">https://sakaue-farm.co.jp/</a>

トイレと更衣室があることで快適に働けるようになった

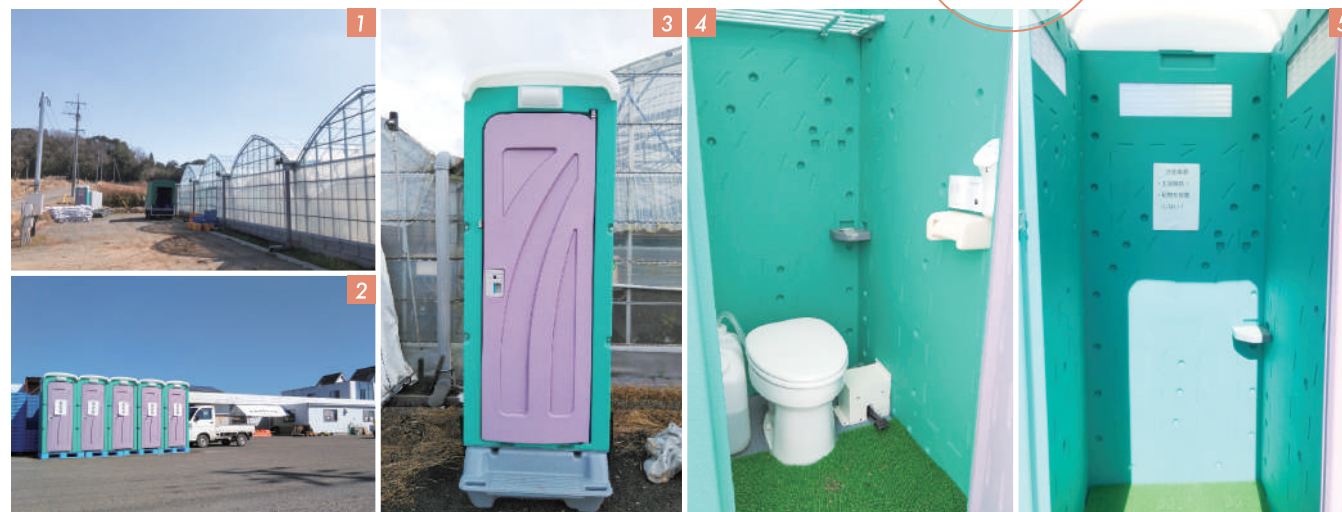


## 補助金の使い方内訳(税抜)

- 仮設トイレ12基 …… 約 **230** 万円
- 更衣室8基、輸送費込 …… 約 **70** 万円  
(パネルを張り合わせたオリジナル仕様)

# アフター AFTER

男女のトイレが隣接していないと安心して使える



1:ハウスエリア付近の仮設トイレは、女性従業員の多い施設栽培エリアに設置 / 2:更衣室5基は、作業場の近くにあり、ぐっと便利に / 3:12基導入した仮設トイレ / 4:トイレ内には荷物置き場があり、使いやすさにつながっている / 5:トイレ内、更衣室内共に人工芝を敷くことで、快適な空間に。

## 広い場所にバランスよく、なるべく多くのトイレと更衣室を設置する

経営者側で自主的に設置を検討していたところ、今回の補助事業を知り応募しました。圃場がとても広いため、予算内でなるべく多くのトイレ・更衣室を設置できるよう12基の仮設トイレを設置。女性が多くいる施設栽培のエリアを中心に、トイレをバランスよく配置すること、男女のトイレの場所は離して、見られたくないという気持ちにも配慮することを心がけました。

## 環境整備が多様な人の働きやすさを考えるきっかけに

この事業を通じて感じたのは、トイレや更衣室の問題は、仕事を辞めるほどの大きな問題ではないけれど、仕事を敬遠する理由になること。弊社で働く人は比較的若い方が多く、国籍もさまざま、移住者もパートの方もいろんな方がいます。異なる背景をもった多様な人が働く弊社で、「みんな」が快適に働けるように、これからもハード・ソフト両面から環境整備を進めていこうと思いました。



採用活動でトイレの充実や更衣室の設置がアピール材料になる

## 在職者の配置転換がスムーズに

女性従業員からのトイレと更衣室導入の評価は高く、採用活動における弊社のアピールポイントにもなることがわかりました。今回の環境整備がきっかけで、求職者や配置転換に応じる社員が10人程度増加しました。人数が増えても、個人個人を理解し、その人に合った働き方を提供していく会社でありたいです。

ビフォー

## ● BEFORE ●

### 圃場は約200ヘクタール。トイレ・更衣室へのアクセスが大変

事務所まで車で20分かかる圃場もあり、コンビニや工事現場のトイレを借りたり、休憩に合わせて事務所まで戻ってきたりする必要がありました。これまでもいくつかトイレはありましたが、男女兼用で使いづらいという声があがっていました。

### 女性ならではの「小さな不満」は見えづらい

採用において、女性活用に積極的に取り組まないと人が集まらないと感じています。それならば女性従業員にとってどんなニーズがあるかを知ることが大事ですが、トイレや更衣室の問題など「女性特有」のものはていねいに拾おうとしなないとなかなか出てきません。



# 三つ星株式会社

話し手:代表・富田美和さん

## 団体情報

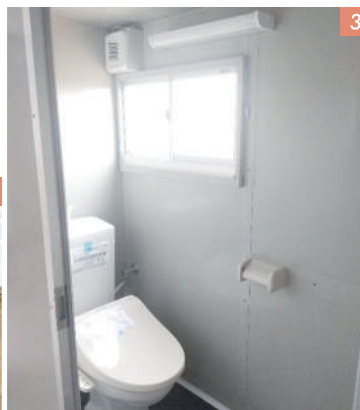
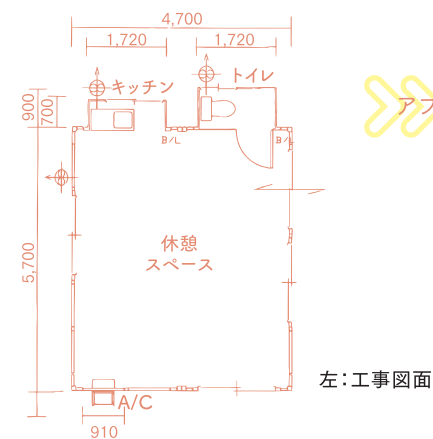
所在地	福井県坂井市坂井町
代表者	富田美和
設立年	2018年1月
従業員数	12人(うち女性5名)
特徴	<p>長ねぎ、トマトを主に栽培。地域を大切に農地や自然環境の保全に最善を尽くすこと、子どもたちに夢や希望を与え、三つ星に関わる全ての人が笑顔になれるように、自分たちがきらめくことを目指して農業をしています。</p> <p><a href="https://3hoshifarm.themedia.jp/">https://3hoshifarm.themedia.jp/</a></p>



## 補助金の使い方内訳(税抜)

- トイレ……………約**33**万円
- 休憩室建物等の整備…約**335**万円  
(簡易キッチン含む)

※休憩室床面積 28.59m<sup>2</sup>  
 ※総工事費のうち300万円の上限を超える88万円は自己負担



1:休憩室の基礎工事の様子。作業を行うハウスとは分離して建設 / 2:完成後の休憩室。更衣室としても利用しており、農作業・除雪作業後に、安心して着替えられるようになった / 3:休憩室内のトイレ / 4:休憩室内観

## アフター-AFTER

仕事体験に来る  
 地元の女子中学生を  
 安心して迎えられる



## 女性が周りに気兼ねせず、安心して入れるトイレ

別棟に女性専用のトイレを設置したことで、BGMを流さずトイレにいけるようになりました。毎年、仕事体験に来てくれる地元中学生のうち、半分以上が女子生徒。衛生環境を整備できたことは、農業を職業として選んでもらうための大きな一歩になりました。



周囲に気兼ねなく  
 トイレに行けるようになった

## 農福連携を進める就労環境整備へはずみ

施設外就労\*で、農繁期には、週3~5日、1日あたり約3~6人の障がい者の方と1~3人の施設職員さんが入ってくれます。現在来てくれる方々のうち利用者は半分ほど、職員では大半が女性です。

会社を始めて3期目ですが、設立時の予想よりたくさんの従業員が働いています。休憩室が小さいことやトイレの問題は、ずっと「どうにかしたい」と考えていたこと。良いタイミングで補助金のことを知りました。

※利用者と職員がユニットを組んで、企業から請け負った作業を、当該企業内で行うこと。

## 女性のストレス軽減は、男性の働きやすさにもつながる

事業を通して、女性従業員がトイレを利用する際のストレスを軽減させることができましたし、男性も気持ちよく働くことにつながると感じています。これからさらに、短時間・短期間の労働条件、派遣や業務委託等を含めたさまざまな形態で、農作業に携わる女性を広く受け入れていきたいです。



ビフォー

## BEFORE

### 音漏れが気になって安心できないトイレ

男女兼用のトイレがあるのは、男女関係なく使う休憩室のすぐ隣り。女性社員にとっては音漏れが気になる環境で、とくに男性社員が休憩室にいる場合には、休憩室のBGMの音量を上げてからトイレに入る必要がありました。

### 休憩室はあっても「女性専用」じゃないと困ることも

夏に地元の女子大学生がインターンシップで来てくれても、安心して着替えられる場所がないために、汗をかいた作業着のまま帰る必要がありました。また、社員が熱中症で体調を崩しても、横になれるスペースがなく、机に突っ伏して休むしかありませんでした。

# Mother Nature 農村でかがやく女性協議会

話し手: 代表・水口良子さん

## 団体情報

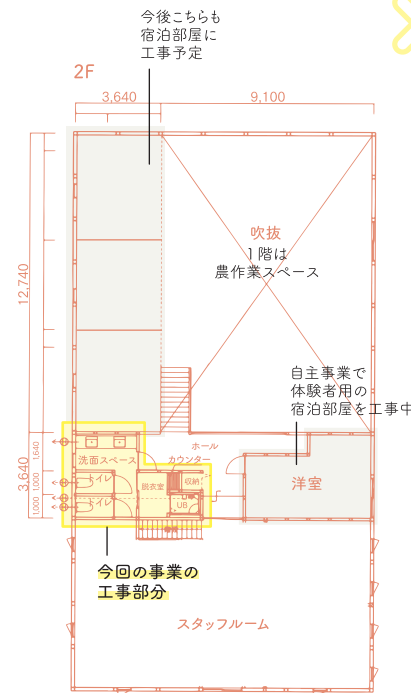
所在地	滋賀県高島市マキノ町
代表者	水口良子
設立年	2018年4月
会員数	8人(うち女性6人)
特徴	メンバーは水稻、露地野菜を主に栽培。農業+カフェ・林業・馬など、自分たちが笑顔で活動し、その姿を見て農業に興味をもってもらえるようにつとめています。農業にはさまざまな可能性があるため、現状では狭い入り口を広げる活動をしていきたいです。



## 補助金の使い方内訳(税抜)

- トイレ・シャワールーム・……………約**330**万円  
更衣室

※上限300万円を超える金額は自己負担



上: 工事図面。既存の事務所建屋2階部分をリフォーム

## アフター-AFTER

清潔感を第一に設計してもらいました



- 1: 事務所建屋 / 2: 男女別トイレ / 3: シャワー室の設置で、夏場の研修生受け入れも安心に / 4: 更衣室 / 5: 手洗いは、多数の受け入れを想定して、頑丈なつくり / 6: 子連れママ向けのおむつ交換用カウンター
- 7: 1階農業スペースから見た工事の様子。階段上右側が今回の環境整備エリア

## 環境整備ができれば、女性の農業人口は増えるはず

私たちが開催している体験や研修に参加したい動機を尋ねると、女性の参加理由は「食の安全を考え、自分で野菜をつくりたくなった」、「環境に配慮した農業を学びたい」といった明確な理由が多く見られました。潜在的なニーズがあるのだから、女性が農業にかかわる機会を創出すれば、女性農業者の増加につながると考えています。そのため女性が生理現象を我慢しなくていいような環境づくりが大切だとあらためて思いました。

## 長時間の研修や体験も、トイレ・シャワー・更衣室の充実で対応

今回の事業を活用したのは、農業体験に参加したり就農相談に来てくれる女性に、これまで以上に親身に時間をかけて寄り添える体制をつくりたいと考えたからです。農業研修は、初級編・中級編・上級編の3コースの講座を開講することを予定していて、長時間の講座のネックがトイレ、更衣室、夏場のシャワー室だったので、今回整備ができて、取り組みに向けたはずみになりました。

### 農業研修を実施するためのインフラ整備に

今回の事業を通じて、女性メンバーが働く際の土台づくり、体験に来る人や就農希望者など、多様な人を受け入れるための環境を整えることができました。今後の研修コース提供を通じて地域の農業者を増やし、いずれは耕作放棄地問題の解消と農村の活性化につなげていきたいです。



ビフォー

## ● BEFORE ●

### 農業体験希望の6割は女性。受け入れ体制はできている?

令和2年度には親子農業体験に、女性32人、男性12人、子ども39人が参加。就農希望者の研修や体験には、女性41人、男性24人、子ども6人が参加。例年6割程度を女性参加者が占めているのに、トイレの数は足りていませんでした。

### 1日中汗をかく夏場の作業後は、シャワーを浴びたいけれど……

特に夏場は農作業で1日中汗をかきますが、着替える場所がなかったので、お客さまに対応するにも自信が持てませんでした。ベタつきや臭いが気になってしまい、従業員の女性同士で「臭いは大丈夫?」と確認し合っていたのです。